

プレスリリース

令和5年9月15日 山武市秘書広報課

送付文書 計4枚

報道機関 各位

**～山武の至宝 BaBa ピザ(笑の会)とこだまお話会が
内閣府特命大臣から表章を受けました～**

ボランティア活動等で活躍する山武市内の高齢者団体（Baba ピザ（笑の会）・こだまお話会）が内閣府主催の令和5年度「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」に認められ、内閣府特命大臣から表章を受けました。

詳細につきましては、別添資料及び内閣府 HP(<https://www8.cao.go.jp/kourei/kou-kei/age-list-all.htm>)をご確認ください。

伝達式は、次のとおりです。

ぜひ、取材にお越しくくださいますようお願い申し上げます。

〈訪問日時〉 令和5年9月25日（月） 11:00～12:00

〈場所〉 山武市役所2階 公室

※ 2階秘書広報課広報係までお越しください。

〈受章者〉 Baba ピザ（笑の会） ※こだまお話会は10月30日(月)に伝達式予定。

なお、お越しいただける場合、事前に高齢者福祉課(電話 0475-80-2642)まで、ご一報頂けますと幸いです。

【お問い合わせ】

山武市保健福祉部高齢者福祉課

担当：山倉、瓜生

TEL：0475-80-2642

FAX：0475-80-2650

Email：koreishafukushi@city.sammu.lg.jp

【送信元】

山武市総合政策部秘書広報課

担当：松崎、五木田

TEL：0475-80-0152

FAX：0475-80-2107

Email：hishokoho@city.sammu.lg.jp

令和5年度社会参加章（笑の会）授与式 次第

日時	令和5年9月25日（月） 午前11時から
場所	山武市役所 公室

1. 開 会
2. 受章内容の説明
3. 社会参加章授与
4. 記念撮影
5. 歓 談
6. 閉 会

《表章の概要》

内閣府がエイジレス・ライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ること）を実践している高齢者等の事例を紹介するもので、令和5年度は、エイジレス・ライフ実践事例60件、社会参加活動事例42件が選考決定されました。

《受章に至る活動内容》

婦人会活動を端緒に、平成13年からボランティア活動を行っているグループで、生涯学習活動や独居高齢者等に対するの慈善活動を続けてきている。運営も補助金に頼らず、近接している道の駅でのおにぎり等の物品販売や不要品の活用等で工夫して賄っている。当団体が活動する蓮沼地域は九十九里浜に面しており、平成23年3月11日の東日本大震災では津波浸水により被害を受けている。自らも被災側にあったものの、地域住民やボランティアに炊き出し活動を行う等、地域づくりに自発的かつ献身的に取り組んできている。現在の中心的活動は「BaBaピザ」と呼ばれる地産地消を目指した飲食店運営となっており、平均年齢78歳を迎えるスタッフによるピザづくり・接客は、新たな交流を生んでおり、地域活力を創出するリーダ一的団体となっている。



[内閣府ホーム](#) > [内閣府の政策](#) > [政策調整トップ](#) > [高齢社会対策](#) > 「エイジレス・ライフ実践事例」及び「社会参加活動事例」の募集と紹介

「エイジレス・ライフ実践事例」及び「社会参加活動事例」の募集と紹介

エイジレス・ライフ実践事例
及び
社会参加活動事例の紹介事業



趣旨

内閣府ではエイジレス・ライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ること）を実践している高齢者の事例（「エイジレス・ライフ実践事例」）や、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等（「社会参加活動事例」）を募集し、その中から内閣府として紹介する事例を決定し広く紹介することにより、国民の参考としていただくことを趣旨としています。

紹介する活動事例

エイジレス・ライフ実践事例（個人）

現にエイジレス・ライフを実践している方及び高齢期前からその準備をし、今後も継続して実践していると認められる方であって、広く全国に紹介することがふさわしいと認められるもの。

社会参加活動事例（グループ等）

主体的に社会とかかわりを持ち、現に積極的な社会参加活動を行い、今後も継続的に活動が行われると認められるグループ、団体等であって、高齢社会における高齢者の社会参加活動として広く全国に紹介することがふさわしいと認められるもの（原則として構成員の数が10名以上で、かつ、65歳以上の者が中心となって構成されていることが必要）。

募集時期

募集は毎年年度末頃に公表します。

令和5年度の募集

募集の受付は終了しております。

令和5年度の選考結果

都道府県・指定都市・中核市及び高齢者関連団体から推薦のあったエイジレス・ライフを実践する89名、社会参加活動を行う66団体の中から、内閣府において開催された選考委員会（委員長：有馬廣實 拓殖大学名誉教授）の案を踏まえ、エイジレス・ライフ実践事例60名、社会参加活動事例42団体を決定しました。

[エイジレス・ライフの事例はこちらから](#)

[社会参加活動の事例はこちらから](#)

選考事例の紹介

選考された事例については、老人週間（9月15日～21日）にあわせて、地方公共団体や関係の民間団体において開催されるイベントや、本年11月8日に開催する「高齢社会フォーラムin姫路市」（主催：内閣府・姫路市）において紹介されます。

表章

選考されたエイジレス・ライフ実践者に対し「エイジレス章」、社会参加活動団体に対し「社会参加章」を章する書状を交付するとともに記念の楯を授与します。

「エイジレス・ライフ実践事例」及び「社会参加活動事例」

令和5年度 社会参加活動事例(合計8事例)・抜粋

10	埼玉県 白岡市	新白岡令和クラブ しんしろかわけいわ	7	高齢化が進む住宅街において、飲食店やカフェの閉店により気楽に集える場所がなくなってしまったことから、高齢者の居場所を求める声が高まって結成され、地域の集会所を活用して高齢者の憩いの場を提供している。 地域団体の音楽活動などの発表の場としての鑑賞型カフェや、地元農家が栽培した新鮮な野菜・果物及び地元作家のハンドメイド作品等を扱ったマルシェなどのイベントを定期的に開催している。 工夫を凝らしたイベントは高齢者だけでなく子どもたちまで楽しめることから、訪れる方は年々増加しており、コロナ禍にあっても感染症対策を徹底しながら地域に根差した活動を積極的に継続して地域振興や世代間交流の推進に貢献している。
11	千葉県 松戸市	河原塚ことぶき会 かわらづか かい	1	河原塚ことぶき会は、老人クラブとしては初めて、国土交通省が推進する「グリーンスローモビリティ」の実証実験に参加した。単なる移動手段だけでなくコミュニケーションツールにもなり、高齢者の介護予防に役立ち、社会参加を促して、地域社会に貢献した。これは、松戸市での電動車の導入にもつながった。 他にも茶話会「南山カフェ」の毎週開催、スマホのLINE講習、お散歩会、公園などの掃除、こども食堂や独居高齢者の見守り・パトロールの活動など幅広く積極的に地域活動を展開し継続して行っている。
12	千葉県 山武市	こだまお話会 ほなしかい	3	平成元年結成以後、長年にわたり、地域福祉及びボランティア活動に尽力している。こども園や図書館でのおはなし会や、図書館で行われるイベントの参加協力、高齢者施設での読み聞かせ活動など、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方々を対象とした活動をしている。山武市と山武市社会福祉協議会の広報誌については、視覚障害者向けの「声の広報」として毎回、朗読テープを作成している。 また、山武市社会福祉協議会主催の山武市社会福祉大会では、毎年司会を務めている。
13	千葉県 山武市	笑の会 しょう かい	2	婦人会活動を端緒に、平成13年からボランティア活動を行っているグループで、生涯学習活動や独居高齢者等に対しての慈善活動が続けてきている。運営も補助金に頼らず、近接している道の駅でのおにぎり等の物品販売や不要品の活用等で工夫して賄っている。当団体が活動する連沼地域は九十九里浜に面しており、平成23年3月11日の東日本大震災では津波浸水により被害を受けている。自らも被災側にあったものの、地域住民やボランティアに炊き出し活動を行う等、地域づくりに自発的かつ献身的に取り組んできている。現在の中心的活動は「BaBaピザ」と呼ばれる地産地消を目指した飲食店運営となっており、平均年齢78歳を迎えるスタッフによるピザづくり・接客は、新たな交流を生んでおり、地域活力を創出するリーダー的団体となっている。
14	神奈川県 横浜市	恒寿会 こゑきゆうかい	1	恒寿会は老人クラブ活動だけでなく、地域密着の生活様式を取り入れ、高齢者の難民化の解消に取り組んでいる。高齢者の自立と支援をテーマに「ささカフェ」を平成28年5月に立ち上げ、毎週木曜日に自治会館で開催して地域の交流を深めている。令和2年のコロナ禍からは会場を野外の団地内公園に変更して、朝市（青空カフェ）ささげ台マルシェとして活動を続けており、地域との交流に貢献している。